
ラズベリーが落ちる庭。

ささぐれタロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラズベリーが落ちる庭。

【Nコード】

N4349G

【作者名】

ささぐれタロー

【あらすじ】

初恋なんて、なんていわないで。思い出してみたら？

(前書き)

初恋かあ……

この後、作者の知られざる過去が明らかに！……！！？

ふと、甘い匂いに誘われた。どこからともなくその匂いは薫^{かお}ってきた。

綺麗な匂いだった。

オレは匂いだけを頼りに、ランドセルを揺らせながら角を曲がった。そこには野があった。

西日のあたる野に向かって歩いていった。

そこには、オレンジ色に照らされた真っ赤な果実が野原一杯に広がっていた。

甘い匂い。身体が弾むような匂い。

好きな匂いだ。

オレは赤い果実を一つだけぷちっと取り、口の中へ放り込んだ。

「あー：甘酸っぱえ：」

好きな匂いに、好きな甘み、好きな酸味。それが口の中に広がった。ラズベリーがそこにはあった。

ふと、目をやると不自然に置かれたベンチに誰か横たわっていた。

オレは近寄っていった。

その人は寝ていた。透き通った肌に亜麻色の髪。そして、少しだけ頬が赤い。

オレは少し息が詰まった。

長い睫毛^{まつげ}に心を突かれてる感じだった。

その人はオレが大丈夫？と言う前に目が覚めた。

真っ直ぐな瞳だった。桜色の唇にぴったりな瞳だ。凄く綺麗な人だ。ここに熟れてるラズベリーよりも、ずっとずっと

美しかった。

オレは、甘酸っぱい匂いとともに恋に落ちた。

小学5年生だった、オレの初恋。

その人の名前は梓^{あずさ}さん。中学3年生だった。
ここが好きらしく、よく来てるらしい。

オレも、バカみたいに毎日通った。

梓に会いたかったから。

瞳を開けた梓は、目の前にオレがいたことに酷く驚いてた。

「僕、誰？」

と、聞かれた。柔らかな声だった。けれど、どこことなく尖っていて
…オレの好きな声だった。

「おれは、ケンイチ」

オレがそう応えようと、緩^{ゆる}やかに頬をあげて。

「じゃあ、ケンくんだねっ」

そういった。多分、オレは顔が真っ赤だっただろう。恥ずかしくて
顔を少し背けた。

そして、梓は腕を伸ばしてきて何気なく頬を触った。

オレはビクッと反応する。「触られた!」と思って、もの凄く恥ず
かしかった。

オレは、左腕で軽くあしらった。

多分、鼻血出る寸前だ。いや、出ないけど。

そうして、いきなり

「うんっ。小癪^{こしやく}な笑顔がかわいい」

と言った。そのときは意味が解らなかったけど…なんとなく、恥ず
かしくて。

「ちがうよっ!」

と、子供みたく（子供だが）頬を膨らませた。

それからオレは毎日そこへ通った。

梓も毎日いてくれた。毎日いろんなことを一杯話した。

そしてある雨の日。いつものように学校帰りにそこへよった。

だけど、梓は居なかった。

それからずっと梓は居なかった。

オレの初恋は呆気なく散った。むしろ、恋の蕾^{つばみ}がいとも簡単に缺^{はさま}で

ちゃん切られてしまったのだった。

それから、3年後。つまり、今。オレも中学2年生なった。

また、ふと甘い匂いに誘われた。

オレは小5のときの甘酸っぱい経験なんてもう、心の箱に鍵をかけてしまっていた。

だから、当時のことなんて忘れていた。

またオレは、匂いにつれられ角を曲がり野へやってきた。そして。

ソコの匂いで当時のことを鮮明に思い出してしまった。

ラズベリーが落ちる庭。

(後書き)

ならないから。

これで終わりかって？

んなこたあない。

まあ、ちよっとずつ付け足していくから。お見逃しなく！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4349g/>

ラズベリーが落ちる庭。

2010年12月11日17時31分発行